

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400939		
法人名	有限会社ホリ		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
所在地	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338		
自己評価作成日	平成21年7月21日	評価結果市町村受理日	21年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13番地12-205		
訪問調査日	平成21年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上であって、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける大きな工場もあり、民家も点在しています。又近隣にはいろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて、季節を味わっていただいております。
ホーム内も常に野の花、山の花に気を配って身近に四季を感じていただいております。
米作農家と直接契約し砂地で収穫された美味しい米を購入し、卵は、飼育農家から直接新鮮な鶏卵を購入する等、食のおいしさを追求した料理作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に位置するホームは自然環境に恵まれ、入居者は四季折々の山野草を眺めながら山菜採りを楽しみ、自家菜園の野菜を収穫しながらゆっくりとした生活を送っている。施設長の食に対する思いから、地産地消にこだわった食材(米・卵・調味料)を使用した食事を低料金で提供している。又、入居者や家族の意見を尊重し、入浴や外出等ホームでの生活が平等になるような機会を支援し、職員は記録や調理に追われることなく入居者との関わりを大切にしたいケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位で地域の中で安全に楽に生活出来ますように全職員の意識統一と向上の為に毎日の朝礼と月1回の全体ミーティング時に唱和をしている。	開所時から運営理念に地域密着型サービスとしての文言も盛り込み、地域との関わりの重要性を運営者・管理者・介護者がそれぞれの立場で認識している。朝礼時や全体会議で唱和するとともにマンネリ化が生じないよう日々心を新たにしていく。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	必要時の買い物や散歩で外出を図り又外からのボランティアの受け入れも積極的に受け入れ、年行事の中にも交流が図れるように作っています。	日常的な買い物は地域の商店を利用し、地元の人々との交流の場を支援している。近隣の方の花の差し入れやホーム内の消毒時に地域公民館の利用や、ボランティアの受け入れを積極的に行い入居者に張りのある生活を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いろいろな地域の集会時や事務所への相談進めていきたいが毎日の事務に追われ生かす事が出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回を定期的実践している。ホーム内での報告や知見者の意見又各機関の意見を伺って毎月の全体ミーティングにて報告を行い考えていく事を進めている。	家族・行政・民生委員・老人会・同業者が参加して二ヶ月毎に開催されている。入居者の近況や行事報告を行い参加者から出た質問や緊急時の対処法をテーマとしてホーム長や管理者が話しを行っている。	会議に参加していない家族への報告書発送などにより、共有化に繋がることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	初めに比べると関わる回数も増えており、担当者との話も直接行うようになった。特に運営や研修時の提出物や報告、相談とメニューも増してきた、現在のところケアに関しての相談は発生していない。	介護保険などの手続きや運営や研修についての質問に応じてもらうなど役場担当者との関係も構築されつつある。運営推進会議に毎回の出席があり、公的立場から意見や助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	頭では理解出来ていても、日頃の中でつい出てしまう行為もある。勉強会やミーティングや回覧を通してだけでなく常に考え指導、実践していくように努めている	全体会議や勉強会を通じ、身体拘束は“あってはならない行為”と認識を強め、全職員が気を引き締め取り組んでいる。特に言葉による拘束(スピーチロックなど)がないかお互いの言動に注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングや勉強会で又は回覧にて知識を高め全職員の意識を引き上げ、お互いが注意し合える関係を作っていくよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となられる方々もおられず実感性が乏しく勉強としては取り上げたり通達として流しても、理解は出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族又は紹介者に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分を分かりやすく1か月分にして説明をし、ホーム内の見学も必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題に合ったやり方で行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様より又は当方よりのお願相談を話している。又請求書送付の折2カ月に1回要望として記入出来るよう欄を設けており月1回の全体ミーティングで回している。	利用料支払いや面会時に職員から言葉かけを行い家族の意向や要望を聞くよう努めている。家族からの要望で外出届けを作成する事で、入居者が公平に出かけられる機会を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して職員の意見を出しやすい場作りに努めている。その結果毎日のケアのやり方や運営方法にも徐々に生かされる事が多くなっている。	会議や日々の申し送り帳の中で、管理者は職員の意見を吸い上げケアに反映させている。半年に一度、ホーム長と管理者は各職員と面談を行い、意見や要望を聞くと共に相談事にも応じ職場の環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績など検討して、やりがいある職場、向上心を持てる職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の職員研修や各施設への研修、又は県の研修への参加を含め日常的なミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議への出席と玉名郡市GH連絡協議会への参加を通して廻りの見聞を広め交流することで質を高めることを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にて、ゆっくりと会話を行うことでサービスに不安を抱かせなく、本人の不安を理解する対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話して頂くことに心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番必要としている件を対応の中より探り、いろんなサービスの説明を行ってみる事で、相談者にあったものを自らが選べるように図っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	指導は行っているが、状況によって、又介護者によって本人のニーズをうまく引き出せなくて、共に過ごし支えあう関係作りが出来ない時がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回の状況報告書と、2か月に1回のたんぽぽ便りを郵送することで家族の知らない一面を知って頂き又訪問時の本人様との面会がいい形で出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会はあるが限られており本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり悩むところです。	勤務ローテーションの関係もあり、なかなか入居者の希望に沿った関係継続の支援には難しい状況にある。	関係継続にはどのような支援があるのか等、職員間で話し合い実現に至ることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に寂しい思いや不安を感じさせない為に人数と行動の把握をして個別対応や居室訪問をしたり皆の中に入っていけない入居者の居場所を作り楽しい関わりが出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設をいろんな事情があつて移る必要のある方に対し次の施設への不安を少しでもなくす為入所後の訪問や関係者への情報と家族、本人へのフォローが出来ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理屈は分かっているが、その場になると本人の思いよりスタッフの考えで動いてしまい一部のひとにストレスとして出ることもあり、朝礼、連絡ノート、全体ミーティング、その場の注意で極力本人本位の重視の指導に努めている。	“つついスタッフの考えで動いてしまうことがある”と、管理者は日頃のケアを振り返っている。寄り添いのケアの中から、入居者の思いを引き出しケアに繋げたいとしている。	寄り添い、傾聴のケアの重要性を認識されており今後もミーティングなどにより、本人本位のケアに繋がるよう検討いただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書類の熟読と一人一人の毎日の関わりの中での話して本人を早く知る努力を進めているが日常のお世話に追われ完全とはいっていない。		
25		○暮らしの現状の把握			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、連絡帳を業務に入る前に必ず読んでおくことを指導して、本人に合った対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり家族訪問時に希望などを聞く、又主治医にとの相談も入れたりことで現状のニーズに近い計画とモニタリングが出来ている。	入居者を職員の担当制として担当者から上がった声や本人家族の思いをプランに反映させている。必要に応じて3～6か月毎見直しを行い、家族の署名捺印で確認としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録と実践を通して気づきや工夫を求めているが、一部の動きで継続が難しい。改めて話し合う中で全体的見直しを進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時に対応出来るように、おかしいと気づいた時より「1日の行動概要」の記録を行うことで早目のその時だけの対応に役立つよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいやはりを持って頂く為にボランティアの訪問や行事計画の実践の中で今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になるように努力していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院への受診付添又当方への往診を定期的に受け入れ家族との相談も交えお互いが信頼関係作りが出来る為の前向きな働きかけを行っている。	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診同行や協力医による週一回の往診を実施している。受診報告や医療相談は家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置は有りません。医療機関との24時間体制の対応の取り交わしはやっており、2つの医療機関から定期的な往診と他の医療機関への定期受信も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と同行することによって本人家族への安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡も行っている。又地域連携室との交流の場での情報も訪問して入取して努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項の説明と協力医院等の説明時に行っているが、文書としての取り交わしは現時点でそのような対象者もなく、してはいない。しかしこれからは早い段階にて取り組む姿勢も必要と感じます。	現段階では看取りは行はれていないが、今後は家族の要望があれば前向きに検討したいとしている。	重度化や終末期に向けたホーム内の方針を明確にし、本人・家族の意向を早い段階から確認しておくことが必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングや研修に参加したり情報として流している。又直接現場での出来事を見て聞いて実践しているが危機管理に乏しいように感じます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署や防災会社の協力を得て防災訓練を行っています。あわてずに出来る事を目標にそして地域の人の協力も得て、災害時の食料品、水分等も備えて置く必要を感じます。	近隣企業も参加した定期的な防災訓練を実施している。年内にはスプリンクラーも設置予定である。	今後は家族も参加しての訓練実施や、災害時の備蓄準備を期待したい。建物の立地条件から自然災害時の対応マニュアルの作成が早急に必要と思われる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保			
----	------	---------------------	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。朝礼、連絡ノート、全体ミーティング又計画書を通して説明を重ねております。	“思いやり・配慮をもった関わり”を大切にすることを、ホーム長、管理者は日頃より職員に語りかけ実践している。重要書類は事務所で保管・管理しプライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わりの中で信頼関係が出来た時に利用者が自分の気持ちを訴えることが出来ると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	つい職員のペースで行って利用者との口論もあっていますが、その都度又ミーティングの中で反省する場面もあり、介護者としての誠意とプライドで、落ち着いて業務に臨むようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋さんを利用しておりおり日常生活を自分の好みや支援によってその人らしいおしゃれが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則としてその時の状態によって入居者と相談しながらその人に合ったお手伝いをして頂き、時には外での食事を楽しみ、目先を変えた配膳、とメニューで、食事への楽しみを提供している。	各ユニット別の献立を作成し、食材切りや味見、配膳など入居者のできる事を見守りの中支援している。ホーム菜園やこだわりの取り寄せ食材(卵・調味料等)を使用した料理を職員も一緒に食す和やかな風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して、本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方、食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食して頂けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の大切さは十分理解しておりますが確実に一人一人全員には行き届いていません。特に一人行動が出来る利用者様へのケアが声掛けだけになる場合が多いようです。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	せめて昼間だけでも声掛けと誘導にて全員トイレで排泄が出来ればと進めていますが一人一人の状況を判断出来なくて失敗もあつてます。自立支援の為トイレでの排泄が出来よう再度指導していきます。	個々の排泄パターンにより日中はできるだけ布パンツで過ごすよう支援している。排泄パターンがうまく確認できていない入居者へも、職員の気づきや意見をもとにトイレでの排泄支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸の使用のない、自然な排便がとれるように、その人に合った水分量の摂取。朝からの運動と食事メニューにより予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるので、無理のない排便や下痢がないように対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴日となっている。皆様入浴を楽しみとされており時に上手に誘う事が出来なかったり体調不良で出来ない時又排泄の失敗等の時は人が替っての声掛けや時間を変更して出来るだけ楽しく入れる配慮をしている。	寛ぎやすい家庭的な浴槽で入浴支援が実施されている。柚子や菖蒲などの楽しい季節風呂や、必要に応じた足浴、シャワー浴により清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れる人、眠れない人一人一人違っておられます。安心して本人のリズムを知る努力をしています。無理な睡眠でなく一日の中でゆっくり安心して眠れるような支援を努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬の確認は責任もって行っております。ただ、服薬の支援は出来ても薬の内容や副作用の理解は全員把握は出来ていない為再度理解に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフの役割を決めているので、一日を楽しく張りのある生活を送って頂く為に当日勤のスタッフが相談したり月行事のメニューを計画して作品作りやゲーム等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿う事は出来ないが、行事の中で買物や旅行、四季の花見、定期受診等で外に触れる時間を作り、全員が関わりを持てるように外出届用紙を利用し平等の外出を楽しめるように図っています。	ドライブを兼ねた買い物に同行したり、蓮・菖蒲など地元ならではの花見や外食など外出の機会を支援している。調査当日も日課のホーム敷地の散歩や菜園の管理に出かけ笑顔で帰宅される入居者の姿があった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のトラブル防止の為に個人にお金は持たせておりませんが但し必要な買物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買物を行い又買物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり家族にも取次出来ることを話しています。又郵便物も制限はしておらず家族も本人もやりやすい方とらえています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場で特にリビングと居間は季節や入居者様の状況によって位置を変えることで気分転換と安全を考えております。廊下も玄関も明るく広く全体的に採光も全室入るようにしております。洗面所・トイレ・浴室は上手な誘導をしないと混乱もありプライバシーの部分に欠けるので介護者の思いやりや配慮でカバーする様指導しております。	リビングにはゆったり寛げるソファが設置され体をやすめたり、テレビや歌、ゲームを楽しめる空間となっている。毎日のポータブルトイレ日光消毒、洗面所、トイレ、浴室も換気や清潔に心がけ居心地の良さに繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくり出来るスペースと、自由に自分の思いの場所に行く事も出来、入居者様同士ソファで楽しみ食事テーブルを囲んで雑談や作業で過ごすよう工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は一人一人自由に利用されており思いである置物や配置も本人の安心と安全を考えたものになっています。家族や知人の来室や別に必要時泊まれる別部屋も準備しています。	本人の使い慣れた品や今必要な物の持込を依頼している。ベットやタンスが備え付けられた居室は面会時にも家族に確認してもらい本人が安心して過ごせる環境作りに努力している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的に建物内はバリアフリーで外へ出る為の出入りに段差が少しあるが手すりスロープ等で危険を防止し又事務所で常に見ええるように作ってある。出来るだけ自由に建物内の移動はされている為高齢の方も自立にて歩行されています。但しスタッフ見守りは必要です。		

自己評価および外部評価結果

(西棟)

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者本位で地域の中で安全に楽に生活出来ますように全職員の意識統一と向上の為に毎日の朝礼と月1回の全体ミーティング時に唱和をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	必要時の買い物や散歩で外出を図り又外からのボランティアの受け入れも積極的に受け入れ、年行事の中にも交流が図れるように作っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いろいろな地域の集会時や事務所への相談進めていきたいが毎日の事務に追われ生かす事が出来ていない。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回を定期的実践している。ホーム内での報告や知見者の意見又各機関の意見を伺って毎月の全体ミーティングにて報告を行い考えていく事を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	初めに比べると関わる回数も増えており、担当者との話も直接行うようになった。特に運営や研修時の提出物や報告、相談とメニューも増してきた、現在のところケアーに関しての相談は発生していない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	頭では理解出来ていても、日頃の中でつい出てしまう行為もある。勉強会やミーティングや回覧を通してだけでなく常に考え指導、実践していくように努めている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体ミーティングや勉強会で又は回覧にて知識を高め全職員の意識を引き上げ、お互いが注意し合える関係を作っていくよう努めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際自分たちの周りに対象となられる方々もおられず実感性が乏しく勉強としては取り上げたり通達として流しても、理解は出来ない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、家族又は紹介者に重要事項説明書に沿って説明を行い、「保険分」と「自費」の部分に分かりやすく1か月分にして説明をし、ホーム内の見学も必ず行い納得して締結を図っている。解約も相手の問題に合ったやり方で行っています。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回利用料の支払いに足を運んで頂く事を原則としており、来所時を通してお客様より又は当方よりのお願ひ相談を話している。又請求書送付の折2カ月に1回要望として記入出来るよう欄を設けており月1回の全体ミーティングで回している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングや個人面接を利用して職員の意見を出しやすい場作りに努めている。その結果毎日のケアのやり方や運営方法にも徐々に生かされる事が多くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績など検討して、やりがいある職場、向上心を持てる職場作りに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の職員研修や各施設への研修、又は県の研修への参加を含め日常的なミーティングの中で担当を決め発表の場を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所の推進会議への出席と玉名郡市GH連絡協議会への参加を通して廻りの見聞を広め交流することで質を高めることを行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に対面にて、ゆっくりと会話を行うことでサービスに不安を抱かせなく、本人の不安を理解する対応を心掛けている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安をゆっくりと話を聞ける環境に努め安心して家族の気持ちを話して頂くことに心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番困っていること、一番必要としている件を対応の中より探し、いろんなサービスの説明を行ってみる事で、相談者にあったものを自らが選べるように図っている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人で出来る部分を把握して本人さんらしい生活を送って頂き、出来ないところは一緒に行き支えあっていくことに努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に1回の状況報告書と、2か月に1回のたんぼぼ便りを郵送することで家族の知らない一面を知って頂き又訪問時の本人様との面会がよい形で出来るように努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会はあるが限られており本人からの要望があってもなかなか行くことも困難であり悩むところです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に寂しい思いや不安を感じさせない為に人数と行動の把握をして個別対応や居室訪問をしたり皆の中に入っていけない入居者の居場所を作り楽しい関わりが出来るように努めている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設をいろんな事情があつて移る必要のある方に対し次の施設への不安を少しでもなくす為入所後の訪問や関係者への情報と家族、本人へのフォローが出来ることを伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その時その時の状況判断と会話を本人と持つことで本人の思いをスタッフに伝えたり、家族が来所時に相談を行い、本人の思いに近づく為の努力をしている。又困難な方については全体ミーティングの場を利用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介先より情報や契約時の中での会話又入所されて日常生活で世間話をしたりすることで今までの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前もつての情報で一日の行動や、本人を知り残存機能の把握に努め、又日々の生活のリズムを見ていく中でその人を知る努力を行っている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングの場や現場スタッフに記入を依頼したり家族訪問時に希望などを聞く、又主治医にとの相談も入れたりことで現状のニーズに近い計画とモニタリングが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	まるごとケア記録により24時間の行動と対応が見えてくる。業務日誌、連絡ノートを上手に利用し情報の共有を図れるように又見直しにモニタリング等を活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時に対応出来るように、おかしいと気づいた時より「1日の行動概要」の記録を行うことで早目のその時だけの対応に役立つように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生活の中に生きがいやほりを持って頂く為にボランティアの訪問や行事計画の実践の中で今以上に地域資源の上手な利用を行うことでより心身が健康になるように努力していきたい。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの病院への受診付添又当方への往診を定期的に受け入れ家族との相談も交えお互いが信頼関係作りが出来る為の前向きな働きかけを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置は有りません。医療機関との24時間体制の対応の取り交わしはやっており2つの医療機関から定期的な往診と他の医療機関への定期受信も行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報の提供と同行することによって本人家族への安心に努めており、入院時の面会や関係者への連絡や行っている。又地域連携室との交流の場での情報も訪問して入取して努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重要事項の説明と協力医院等の説明時に行っているが、文書としての取り交わしは現時点でそのような対象者もいなくしてはいない。しかしこれからは早い段階にて取り組む姿勢も必要と感ずます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングや研修に参加したり情報として流している。又直接現場での出来事を見て聞いて実践しているが危機管理に乏しいように感じます。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署や防災会社の協力を得て防災訓練を行っています。あわてずに出来る事を目標にそして地域の方の協力も得て、災害時の食料品、水分等も備えて置く必要を感じます。	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉の使い方、対応には力を入れています。朝礼、連絡ノート、全体ミーティング又計画書を通して説明を重ねております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉のかけ方や毎日の関わりの中で信頼関係が出来た時に利用者が自分の気持ちを訴えることが出来ると思います。気持ちを受け入れやすい環境作りに力を入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前に比べると、利用者様ペースで進めることができるようになったと感じます。これからも今以上にその人らしい暮らしが出来るような支援をしていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回床屋さんを利用しておりおり日常生活を自分の好みや支援によってその人らしいおしゃれが出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	原則としてその時の状態によって入居者と相談しながらその人に合ったお手伝いをして頂き、時には外での食事を楽しみ、目先を変えた配善、とメニューで、食事への楽しみを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態と状況をしっかり把握して、本人に必要な食事提供の仕方、水分の進め方、食事摂取のやり方もおいしく確実に安全に食して頂けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の大切さは十分理解しておりますが確実に一人一人全員には行き届いていません。特に一人行動が出来る利用者様へのケアが声掛けだけになる場合が多いようです。		

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	せめて昼間だけでも声掛けと誘導にて全員トイレで排泄が出来ればと進めています。一人一人の状況を判断出来なくて失敗もあっています。自立支援の為にトイレでの排泄が出来るよう再度指導していきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬や浣腸の使用のない、自然な排便がとれるように、その人に合った水分量の摂取。朝からの運動と食事メニューにより予防に取り組んでいる。高齢になると必要時に薬の必要があるため、無理のない排便や下痢がないように対応している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴日となっている。皆様入浴を楽しみとされており時に上手に誘う事が出来なかったり体調不良で出来ない時又排泄の失敗等の時は人が替っての声掛けや時間を変更して出来るだけ楽しく入れる配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れる人、眠れない人一人一人違っておられます。安心して本人のリズムを知る努力をしています。無理な睡眠でなく一日の中でゆっくり安心して眠れるような支援を努力をしています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬の確認は責任もって行っております。ただ、服薬の支援は出来ても薬の内容や副作用の理解は全員把握は出来ない為再度理解に努めています	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフの役割を決めているので、一日を楽しく張りのある生活を送って頂く為に当日勤のスタッフが相談したり月行事のメニューを計画して作品作りやゲーム等を行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿う事は出来ないが、行事の中で買物や旅行、四季の花見、定期受診等で外に触れる時間を作り、全員が関わりを持てるように外出届用紙を利用し平等の外出を楽しめるように図っています。	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のトラブル防止の為に個人にお金は持たせておりませんが必要な買物は立替払いによりその時にスタッフ同伴にて買物を行い又買物ツアーの計画の中で必要な物を購入されるように支援しております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をしたり家族にも取次出来ることを話しています。又郵便物も制限はしておらず家族も本人もやりやすい方でとらえています。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場で特にリビングと居間は季節や入居者様の状況によって位置を変えることで気分転換と安全を考えております。廊下も玄関も明るく広く全体的に採光も全室入るようにしております。洗面所・トイレ・浴室は上手な誘導をしないと混乱もありプライバシーの部分に欠けるので介護者の思いやりや配慮でカバーする様指導しております。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにゆっくり出来るスペースと、自由に自分の思いの場所に行く事も出来、入居者様同士ソファで楽しみ食事テーブルを囲み雑談や作業で過ごすよう工夫をしています。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室は一人一人自由に利用されており思いである置物や配置も本人の安心と安全を考えたものになっています。家族や知人の来室や別に必要時泊まれる別部屋も準備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的に建物内はバリアフリーで外へ出る為の出入り口に段差が少しあるが手すりスロープ等で危険を防止し又事務所で常に動きが見えるように作ってある。出来るだけ自由に建物内の移動はされている為高齢の方も自立にて歩行されています。但しスタッフ見守りは必要です。	